

セミナー通信

—教育実習総合センター—

P1のみなさんは、5月半ばを過ぎ、ようやく大学院生活にも慣れ、充実した日々を送っていることでしょう。P2・P3のみなさんは、教員採用試験に向けて、自己PR・目指す教師像等、奮闘中のご様子でしょう。

★ 教採情報(兵庫県)

平成27年度の教員採用試験実施要項が8日発表されました。募集人員は小学校555人程度(前年15人増)、中学校270人程度等となっています。

兵庫県の受験を志望する人は、次の2点をまず押さえる必要があります。

①「第2期『ひょうご教育創造プラン(兵庫県教育基本計画)』」

今年3月に県の教育施策の30年までの基本的な計画として策定さ

兵庫教育創造プラン(めざすべき人間像)

～平成27年度 兵庫県教採募集要項から～

- 知・徳・体のバランスがとれ、自立して生涯にわたって自らの夢や志の実現に努力する人
- ふるさとを愛し、互いに支え合い協力しながら、明日の兵庫を切り拓き、日本の未来を担う人
- 我が国の伝統と文化を基盤として、創造性やチャレンジ精神をもって国際社会に貢献できる人

れました。その基本理念は「兵庫が育む ころ豊かで自立した人づくり」です。以前の理念に新しく自立という言葉が加わりました。つづけて「めざすべき人間像」(3項目)と「培うべき力」(4項目)があげられています。

②「兵庫県いじめ防止(未然防止、早期発見、早期対応)基本方針」

これも今年3月に策定されました。その基本理念・基本的な方向・施策は先の①とともに県教委発行の「指導の重点」などに要点が紹介されています。しっかりと読んでおきましょう。他府県受験者も同様に受験地の教育方針、指導の重点等を熟読しておきましょう。

兵庫県は、昨年3月に「いじめ対応マニュアル」の改訂版が発刊された。その概要は次のとおりであり、詳しくは県教委ホームページに紹介されています。

〈いじめ対応マニュアル〉

- 第1部 教職員マニュアル
- I いじめ問題に関する基本的な考え方
 - II 未然防止
 - III 早期発見(7項目)
 - IV 早期対応(4項目)
 - V ネット上のいじめの対応
- 第2部 組織対応マニュアル
- I いじめ問題に取り組む体制の整備
 - II いじめが起こった場合の組織的対応の流れ
 - III 教育委員会、警察、地域等の関係機関との連携
 - IV 教職員の研修の充実
- 兵庫県教育委員会—

前期セミナー

時間割

(P1)

月曜日 3限

水曜日 3限

(P2)

月曜日 2限

金曜日

1・2限

(P3)

月曜日 4限

★ 教採情報(大阪府・堺市・東京)

大阪府は、教員志望者を対象に「おおさか教志通信」を。堺市は「堺、教師ゆめ塾(未来をつくる)」、京都市は「田舎」を、発刊しています。受験希望者は、各教育委員会のホームページに掲載のメールアドレスにアクセスして、早速登録することをお勧めします。

なお東京都は「東京の先生になる」を刊行していますが、こちらは登録なくパソコンや携帯からアクセスできます。京都市はFacebook。自分の受験都道府県情報をホームページで確認しておきましょう。

▲ 1次対策(教育法規)

昨年度より、兵庫県も教職教養が出題されています。センター主催の教育実践セミナー(前期)においては、現場経験に基づいた「教育法規の実践」を設定しました。

原則としてP2生は毎月曜日2限、P3生は月曜日4限に実施。演習を取り入れた講義形態として実施しています。是非受講してください。

★ 教育講演会

「教師のおもてなし」

講師 大路 亨 先生



4月23日(水)、元西宮市立小学校長の大路先生は、校長時代「ぬくもり」を学校教育目標に掲げ、ディズニーの精神を生かした教育を実践されました。その経緯談をユーモアたっぷりにお話しされ、学生も大路先生の世界に引き込まれ、あつという間に時間が過ぎました。大路先生も学生たちももっと時間がほしい講演会でした。

p1生 Kさん

先生のお話は、全て経験に基づいていたので、心の中にすーっと入ってきました。特に印象に残ったのは、「柱」についてです。

私は今まで自分が大嫌いで、自身を見つめるという作業はしないようにしようというように、見ないように見ないように(略)

私がこんなにダメだと、クラスはもっとダメになり、柱もまともでもないクラスに。先生の言葉の「あなたを信じる人は、信じておりになる。あなたの疑う人は、疑うとおりの人になる。」(略)



今後は、自分がどういう人間なのかを理解し、認め、それを踏まえた上で「柱」をたてていきたいと思えます。

p2生 Eさん

「感動は予想以上のことが起きたときに生まれる」「感動とぬくもりが人の心の悪魔を抑える」この二つの言葉は、生涯忘れないと思えるほどの衝撃的な言葉でした。私は、民間企業で働いていたことがありますが、大路先生のお話を伺うまで、教育界は特殊(異質)なものであると思っ

ていました。「教育とはこういうもの」「教師とはこうあるべき」という理想が自分の知っている世界とかけ離れているように感じていました。

しかし、大路先生のお話から、学校や人を相手にする、人との関わりを大事にするという点では私の信じてきた「人の心は人の心が動かす」という仕事の姿勢のままでよいとほっとしました。目に見える成果がすぐ



に表れないという点では、大路先生のお話にあった中学生のように時間がかかることだと思えますが、二つの言葉を胸に子ども

たち、大人たちと向き合っていくと思います。

p3生 Sさん

子どもたちは、本物かニセモノかを見抜く天才という言葉を初めに拝聴したとき、まさしくその通りだと共感しました。事象を純粹に捉え、まるで大人には見えない何かが見えているのではないかと思うことさえあります。(略)

ディズニーと同じ接客行動を取ったとして、全ての子どもたちの信頼感を得られるかどうかについては疑問が残ります。(略)

一人の人が年に数回訪れるディズニーとは違い、学校は一人の児童生徒が6年間ないし3年間通う場所です。その都度、子どもたちにあう接し方は変化しているでしょうし、あるいは何でもかんでも尽くされることが億劫になってしまいう子どももいると思えます。「心から」と言えば聞こえはよいのですが、それが自身の価値観の押しつけにならないように気をつけたいと思えます。このようなことは恐らくいくら教えても答えがでないと思えます。しかし、答えが出ないと分かっているながらも考え続けていくことが我々教師の責務だと思えます。

大路先生から



学生諸君の「感想文」、ありがとうございます。読み返していただき、逆に僕の方が勉強させていただきました。本当に学生の皆さん、純粹ですね。感動しました。これからの教育界が楽しみです。

意見・要望を募集

皆さんに役立つ情報発信を考えています。どしどし、意見・要望を学年代表まで出してください。